



四六判  
 僕の流儀 What's Next?  
 加藤雅也 著  
 ISBN4-8013-0687-5  
 税込1760円

俳優・加藤雅也、初のエッセイ集！  
 芸能生活で得た学びと気づきを綴る

北野武監督の『BROTHER』、三池崇史監督の『荒ぶる魂たち』をはじめ、数多くの映画やドラマ、舞台上で鮮烈な演技を披露してきた俳優・加藤雅也。俳優歴35周年、DJをつとめるFMヨコハマの「加藤雅也のBANG BANG BANG!」の10周年、そして60歳という節目の年齢を迎えたこの年に初の著書を発表することになりました。国立大の学生だった青年がモデルの世界に足を踏み入れた意外…



四六判  
 大作家でも口はすべる  
 彩図社文芸部 編  
 ISBN4-8013-0701-8  
 税込1430円

言葉のプロがうっかり漏らしたぶっ飛び発言のアンソロジー  
 恩師を皮肉る太宰治、作品への勝手な声に不満な夏目漱石…

本書は、作家たちの本音や失言、暴言を集めたアンソロジーです。名作を生み出し、歴史に名を残した作家といえども、言葉選びを誤ることもしばしば。むしろ、必要以上に周囲を巻き込み、世間を騒がす問題に発展することもありました。師匠である佐藤春夫や井伏鱒二を作品内で皮肉って、大叱責を受けた太宰治。こき下ろした作家の弟子から決闘を申し込まれた、坂口安吾。雑談…



四六判  
 文豪たちの嘘つき本  
 彩図社文芸部 編  
 ISBN4-8013-0653-0  
 税込1430円

嘘から迫る文豪たちの素顔  
 先生！嘘は小説だけにしてください！

本アンソロジーのテーマは、文豪たちの「嘘」。題材は、小説ではありません。随筆や手紙、周囲の人々を書き留めた、文豪自身の嘘が題材です。「死んでやる」と言い過ぎて記者にキレられた太宰治。親しい人に嘘のハガキでいたずらをする芥川龍之介。「彼の嘘を聞くと春風に吹かれるようだ」と評された歌人・石川啄木など。どこか魅力的で憎めない嘘を通じて、文豪たちの意外な…



四六判  
 文豪が愛した文豪  
 真山知幸 著  
 ISBN4-8013-0638-7  
 税込1430円

大切な人への熱すぎる思い  
 あこがれ、友情、愛憎…

「新聞は『崇拜』と表現芥川龍之介に対する太宰治の強烈な愛」「夏目漱石を絶対視けど旅先に押しかけ借金を頼む内田百閒」「恋も文学も我が道を行く森鷗外と永井荷風の交流と意外な共通点」「酒・喧嘩・宮沢賢治を好きすぎて意気投合中原中也と草野心平」本書はこうした、文豪同士の「愛」にフォーカスした書籍です。「あこがれ」「友情」「愛憎」という三つの切り口に基…



四六判  
 虚実医霊  
 千国礼拓 著  
 ISBN4-8013-0545-8  
 税込1430円

元 除霊整体師が紡ぎだす怪異アンソロジー  
 「怪談奇談お持ちの方、初見料はいいません」

「怪談奇談お持ちの方、初見料はいいません」珍妙な看板を掲げた除霊整体師のもとには、様々な霊障を抱えた患者がひっきりなしにやってくる。毎晩夢の中に現れる男性、住宅街にひっそりと佇む首吊り屋敷、女子大生に忍び寄るバラバラ死体の亡霊……。生命力の象徴である“えねいど”を巧みに操り霊障を取り除いていく整体師だったが、ある患者から「聞くだけで人体に障る」と…



四六判  
 俺はやる  
 輸入道 著  
 ISBN4-8013-0472-7  
 税込1540円

全てさらけ出した魂の自叙伝！  
 突発性難聴、生い立ち、×××、ダンジョン……

激熱注意！輸入道の自叙伝。突発性難聴、両親との関係、いじめ、やさぐれた日々、フリースタイル……輸入道の魂全開の1冊！千葉出身のラッパー輸入道。10代からフリースタイルバトルで頭角を現し、様々な大会で優勝。こめかみに血管が浮かび上がらせ、気持ちをバチバチにぶつけるスタイルは、年齢性別を問わずに多くのファンからの絶大な支持を集めている。「熱い!」「真っ直ぐ!…



四六判  
 文豪たちの口説き本  
 彩図社文芸部 編  
 ISBN4-8013-0451-2  
 税込1320円

SNSで話題沸騰のアンソロジー第二弾！  
 口説くのに必死なのは文豪たちも同じ

本書は、文豪たちの恋の顛末を、口説き文句を介して紹介する一冊です。愛人を夢中にさせた太宰治、素直になれない中原中也、甘い口説き文句を連発する芥川龍之介、先輩詩人を熱烈に慕った萩原朔太郎、知らずに男を口説く石川啄木、思いを伝えられない梶井基次郎、身も心も捧げようとした谷崎潤一郎……。口説き方は文豪によって千差万別です。誠実な口説き文句を伝え続けて願…



四六判  
 文豪たちの悪口本  
 彩図社文芸部 編  
 ISBN4-8013-0372-0  
 税込1320円

青鯖が空に浮かんだような顔をしながら  
 文豪たちは悪口もすごかった

文豪と呼ばれる大作家たちは、悪口を言うとき、どんな言葉を使ったのだろうか。そんな疑問からできたのが、本書『文豪たちの悪口本』です。選んだ悪口は、文豪同士の喧嘩や家族へのあてつけ、世間への愚痴など。随筆、日記、手紙、友人や家族の証言から、文豪たちの人となりやわかるような文章やフレーズを選びました。これらを作家ごとに分類し、計8章にわたって紹介してい…